

東京バッハ合唱団 月報

[第 573 号] 2010 年 3 月

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO
Monthly Newsletter No.573
March 2010

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

《ミサ曲口短調》 ‘日本語歌詞’ での上演が決定 (2011 年 11 月) 3 月より譜読み開始、参加者募集 !!

来年 2011 年 11 月、創立 50 周年記念企画の一環として、《口短調ミサ》を日本語訳詞で上演することが正式に決まりました (第 106 回定期)。

今年 (2010 年) 度は、5 月に、昨年にひきつづき荻窪音楽祭への招待 (荻窪教会特別演奏会) 6 月に第 104 回定期演奏会とつづきます。後半、冬に第 105 回定期を計画していますが、年が明けて 2011 年の春は、定演をはぶき、《口短調ミサ》の練習に 1 年間専念することも決まりました。また今年、来年とも (野尻湖で待ちわびていらっしゃる常連方には申し訳ないのですが) 夏の野尻湖合宿とコンサートを割愛して、都内での《口短調》の強化集中練習にあてる予定です。本邦初演となる ‘日本語上演’ に向け、早くから準備を進め、万全を期そうということです。

2010-2011 シーズンの公演計画

2010/5/16(日)	荻窪音楽祭	荻窪教会
2010/6/6(日)	第 104 回定期	石橋メモリアルホール
2011/1 月初	第 105 回定期	BWV111 他 (詳細未定)
2011/11 月	第 106 回定期	《口短調ミサ》

《ミサ曲口短調》合唱参加者募集、譜読みを開始

東京バッハ合唱団は、過去に 3 回の《口短調》公演をおこなっています。いずれも節目の年の記念公演 (創立 25 周年：1987 年、30 周年：1992 年、40 周年：2002 年) で、すべてラテン語原詞によるものでしたが、50 周年では、1 年前から始まる記念企画の第 1 弾として、‘バッハ日本語演奏’の総決算ともいえるべく、《口短調》日本語上演に挑みます。45 周年の《マタイ》のときにも、合唱団 OB/OG、全国のサポーターの皆さんに呼び掛け、多くの参加者を得ました。今回も、どうぞ今からご準備いただき、応援よろしくお願ひいたします。

この春 3 月から、毎回 1 曲ずつの短時間の譜読みを、先ずは、第 2 部 Credo われ信ず から、現在の練習と並行して取り入れることにしますので、興味をお持ちの方は、いちど見学にいらしてください。

毎練習日の開始 30 分程度 (月 1 回の発声練習日は除く) 原則として土/月の 2 日を 1 単位とし、独唱部分を含む全曲を学びます。

使用楽譜と歌詞について

当合唱団では、《口短調》の訳詞つき出版譜を発行する予定はありませんので、新バッハ全集版の楽譜を各自でご用意いただき (ペーレンライターまたは全音楽譜) 日本語歌詞 (大村恵美子訳) を書き写していただくこととなります。

【歌詞】 <http://www.ab.auone-net.jp/~bach/bwv232.htm>

ただし当面は、譜読みの予定に合わせて、当日の練習箇所のための訳詞つきコピー譜を合唱団で用意し、必要な方にはお分けする予定です (コピー代実費)。

詳細は、事務局までお問い合わせください。

《ミサ曲口短調》譜読み予定

(注) 曲番号は通し番号によります (例：第 2 部 Credo 冒頭 = 第 13 曲 等)

日程 (2010 年)	曲	譜読みの予定箇所
< 3 月 >		< 第 2 部 Credo より >
3/1 (月) 開始、以降、原則として、毎週土/月を単位とする。	13	Credo 1 (Credo in unum)
	14	Credo 2 (Patrem)
	15	Et in unum Dominum (S/A)
3/20 (土) [発声指導]	16	Et incarnatus est
< 4 月 >	17	Crucifixus
4/12 (月) [発声指導]	18	Et resurrexit [2 週]
を除く、毎週の土/月	19	Et in Spiritum (B)
	20	Confiteor
< 5 月 >		演奏会の準備のため、譜読みは中断します。
		・ 5/16 (日) 荻窪音楽祭参加 (荻窪教会)
		・ 6/6 (日) 第 104 回定期 (石橋メモリアルホール)
< 6 月 >	21	Et expecto [2 週]
6/7 (月) 以降、譜読み再開。毎週の土/月	22	Sanctus [2 週]
< 7 月 >	23	Osanna (25 反復) [2 週]
毎週の土/月	24	Benedictus (T)
	26	Agnus Dei (A)
	27	Dona nobis pacem
< 8 月 > [夏季集中練習]		(毎週土曜のみ 13:00-18:00。月曜なし) 冒頭 1.Kyrie から最終 27.Dona nobis まで、合唱部分のみ全曲を集中練習の予定。詳細は後日発表。この期間のみの参加可。
< 9 月 > [前半部冒頭 Kyrie より、譜読みを再開]		■ 《口短調》譜読みは、各練習日の開始 30 分程度。現団員以外の方も参加しやすいように配慮していますが、年内は 2 度の定期演奏会 (本年 6 月、来年 1 月初) の曲目練習が優先されます。この機会に是非、カンタータの練習にもご参加いただくよう、おすすめします。

第 104 回定期演奏会 曲目案内

カンタータ第 124 番 《イエス 共にあらん》

»Meinen Jesum laß ich nicht« BWV124

訳詞/解説：大村恵美子

初演：1725 年 1 月 7 日（顕現節後第 1 日曜日），ライプツィヒ。

クリスティアン・カイマンのコラール 《イエス 共にあらん》（当カンタータと同名。直訳では「わがイエスを われは放さず」）Christian Keymann „Meinen Jesum laß ich nicht“（1658）を基本コラールとするコラール・カンタータ。バッハが愛用してやまなかったコラールの一つである。第 1 曲合唱は同コラールの第 1 節，第 6 曲コラールは第 6 節より，それぞれ歌詞と定旋律（Andreas Hammerschmidt, 1658）をとり，その間の曲は，第 2 - 5 節よりパラフレーズを得ている（歌詞台本の作者は不詳）。

この日の福音書は，12 歳の少年イエスが両親と共にエルサレムに行った帰りに，両親が彼を見失い，引き返してみると宮のなかで教師たちと問答をかわしているイエスを見いだすことができた（ルカ 2：41-52）という物語である。この曲は，イエスを見失った不安と再び出会う喜びを描いたものだが，楽器編成や，テノールによる怖れと不安の表現など牧歌的で，イエスとの共生に重点をおいた，明るく親しみのあるものとなっている。

1. コラール合唱

コラール旋律が，軽く伸びやかなホ長調，4 分の 3 拍子となってソプラノ声部に歌われ，おだやかで和声的な下 3 声（テノール、バス、オルガン）がそれを支える。協奏楽器のオーボエダモーレが愛らしく歯切れのよいテーマとパッセージを，ひとときも休むことなく，冒頭から最後の小節まで吹きとおして，第 1 曲から，至福の境地に誘い込む。

2. レチタティーヴォ（テノール）

でイエスへの献身を率直に表明し，

3. アリア（テノール）

では，オーボエダモーレの，ため息のようなモチーフ，弦合奏の戦慄のように刻み込んで執拗におびやかすリズム，この 2 つの上ののって，テノールが，恐るべき死の打撃のさなかにも，イエスと共に堅く立つことを，凛々しく歌い上げる。

4. レチタティーヴォ（バス）

前半では，苦悩を不安定な音程であらわし，後半は，来るべき旅路の目標としてのイエスとの共生を，くり返し上行する音程によって強調する。

5. 二重唱（ソプラノ/アルト）

通奏低音のみをとめない，8 分の 3 拍子の舞曲調で，嬉々として弾むような 2 声部のカノン。憧れをいだいてこの世に別れを告げ，救い主のもとに馳せ参じようと，抑えきれないほどの気持ちを歌う。

6. コラール

イエス 共にあらん（＝イエスを私は放さない）という言葉が冒頭と結尾にくり返し，下 3 声の連綿とした動きで，この，上下する単純な音階進行から成り立つ自然で美しいコラール旋律が，いつくしみ蔽われる。

このカンタータ初演の 1 月 7 日は，1 日遅れでクリスマスシーズン（顕現節の 1 月 6 日まで）から外れたが，イエスへの信頼と献身，溢れるばかりの暖かい愛の表現において，あらゆる人生の場面で私たちを息づかせ，なごませてくれる音楽である。

（CD 選集「日本語演奏によるバッハ・カンタータ 50 曲選」[第 15 巻]ブックレットより。一部加筆）

[歌詞] <http://www.ab.auone-net.jp/~bach/bwv124.htm>

[使用楽譜]カンタータ第 124 番「イエス 共にあらん」〔ライイトコプフ/東京バッハ合唱団，2002 年刊〕

第 104 回定期演奏会

日時：2010 年 6 月 6 日（日）14：00 開演

会場：新・石橋メモリアルホール（上野）

曲目：

カンタータ第 124 番《イエス 共にあらん》

カンタータ第 52 番《悪しきこの世よ なれを頼まじ》

カンタータ第 17 番《感謝ささげ ほめ歌う者に》

カンタータ第 4 番《キリスト 死につなわれしが》

出演：

光野孝子（ソプラノ），佐々木まり子（アルト）

鏡 貴之（テノール），新見準平（バス）

草間美也子（オルガン）

東京カンタータ室内管弦楽団（オーケストラ）

大村恵美子（指揮）

入場料：前売り 3000 円，当日券 3500 円（全席自由席）

チケット発売中（事務局にて取扱い）

郵便ハガキ：〒156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732

Mail：bachchortokyo@aol.com

後援会員・団友の皆様

当公演へのご招待について

当公演に関しましては，ひさびさの開催ということもあって，多数のご来場者が予想されますが，あいにく会場となる「新・石橋メモリアルホール」の座席数は，かつての 600 席から 500 席に減っております。満席に対処するため，今回は，ご招待来場者のおおよその数をあらかじめ把握させていただき，当日券発行枚数を調整させていただく予定です。

つきましては，後援会員・団友の皆様のうち，ご来場をご予定いただけます方は，当「月報」に同封の返信用ハガキにて，その旨をご通知くださいますようお願い申し上げます。折り返し「招待状」をお送りいたしますので，当日は，これをもってご来場ください。

お手数をお掛けいたしますが，ご協力よろしくようお願い申し上げます。

カンタータ第 52 番《悪しきこの世よ なれを頼まじ》 »Falsche Welt, dir traue ich nicht« BWV 52

ライプツィヒのトーマス・カントル就任第3年にあたる1726年は、いろいろな試みをおこなっている。たとえば、BWV17の解説で言及するように（次号月報の予定）、この年発行の『ルードルシュタット詩華撰』からの特徴あるテキストを用いて、7曲のカンタータを作ったり（5月から9月）、また秋には、4曲の独唱カンタータをつづげざまに作曲した。

1726年

- ・アルト独唱用：10月20日...BWV 169《神にのみ わが心 献げん》1) シンフォニア（オーボエダモーレ、オーボエダカッチャ、オルガン、弦合奏）、7) コラール（合唱）
- ・バス独唱用：10月27日...BWV 56《十字架を 勇みて負わん》オーボエ、オーボエダカッチャ、弦合奏、6) コラール（合唱）
- ・テノール独唱用：11月17日...BWV 55《憐れむべきわれ 罪びと》フルート、オーボエダモーレ、弦合奏、6) コラール（合唱）
- ・ソプラノ独唱用：11月24日...BWV 52《悪しきこの世よ われは頼まじ》1) シンフォニア（ホルン 2、オーボエ、ファゴット、弦合奏）、6) コラール（合唱）

とりわけ BWV 169（アルト用）と BWV 52（ソプラノ用）の2曲は、冒頭に既作の器楽協奏曲の1楽章を転用して配置し、またアリアにおいても、楽器との多彩で変化に富む協奏をおこなっている。この BWV 52 の場合には、それが、魅力的で心をひきつけてやまないこの世から、意を決して神の国へと昇りゆこうとする、その緊迫状態を現わす要素となっている。

この日（1726年11月24日、三位一体節後第23日曜日）の聖書では、イエスを試みるパリサイ人との問答（マタイ 22：15-22）が主題となっているが、バッハはむしろその記事から、偽り多い地上的生から、神の助けによる天国への新生というテーマをとり出してきた。

1. シンフォニア

ブランデンブルク協奏曲第1番 BWV 1046（1721年成立）の第1楽章が、冒頭に堂々と奏でられる。ホルン、オーボエ、弦が三つ巴になって、狩猟の場面のように、地上の逸楽を満喫させてくれる。

すると、ただちにソプラノが、その気分にならうように、「レチタティーヴォ/アリア」のセットを2回くり返し、最後を合唱のコラールでしめくくる、という引き締まった構成である。

2. レチタティーヴォ

この世の偽りを、はじめの叫びで一喝する。建て前と本音の偽り、邪悪（よこしま）に満ちている日々のあり

さまを慨嘆。新バッハ全集では、レチタティーヴォもふくめ、全6曲にファゴットと銘記されているのが目立つ。

3. アリア

ヴァイオリン、と、ここでもファゴットをふくめた通奏低音とで、ソプラノの さても（原詞 immerhin：不利な状況にも構わず、決然と立つさまの副詞）から始まる、怒りをこめた、この世への挑戦を展開。わが敵なる偽りの世が、わたしを弾（はじ）き出そうとも、神はわが友でいてくださるのだ、と激しく歌う。

4. レチタティーヴォ

ファゴットをふくむ通奏低音をともなって、主こそまこと（原詞 Gott ist getreu!）を5回もくりかえす。この曲から、地上への挑戦は、神の庇護のもとに立つ確信へとかわり、次のアリアに流れこむ。

5. アリア

3本のオーボエと通奏低音が特徴的なモチーフを反復する、長い前奏・後奏のリトルネッロに枠づけられた明るいアリア。われ主と共にあり、世には関わりなしと、いまや揺るぎない信念のもとに、幸せをくりひろげる。120小節もの長い恍惚の“永遠の今”である。

6. コラール

アーダム・ロイスナー（Adam Reusner または Reissner、16世紀の著述家、作詞家）によるコラール 主に望みいだけば In dich hab ich gehoffet, Herr（1533、旋律は15世紀ボヘミア）の第1節。《クリスマス・オラトリオ》第5部、第46曲 暗き夜は いま み光に吞まれぬ として出てくるので親しみ深いこのコラールでは、全楽器が加わるが、ホルンは独自の旋律をそえて、神とともにある満ち足りた生の、牧歌的なひろやかさを彩っている。

このカンタータといい、BWV 51《全地よ 歓呼せよ み神に》の爆発的な喜びといい、BWV 199《わが心は 乱れ騒ぐ》（原詞直訳「わが心は血の海を泳ぐ」）の闇・悔いの嘆きから救いの驚きといい、ソプラノ独唱カンタータのドラマティックな内容と表現力には、いずれもずば抜けた効果が聴くものの全身を揺るがすのである。

*

[歌詞] <http://www.ab.auone-net.jp/~bach/bwv052.htm>

[使用楽譜] カンタータ第52番「悪しきこの世よ なれを頼まじ」(ブライイトコプフ/東京バッハ合唱団、2007年刊)

なお、カンタータ第17番《感謝ささげ ほめ歌う者に》BWV17、カンタータ第4番《キリスト 死につながれしが》BWV4の解説は、次号月報（4月号）に掲載の予定です。

5月16日(日)、荻窪教会にて、ワークショップ&コンサート「バッハの教会カンタータを日本語で歌う」(第21回荻窪音楽祭参加)を開催します。第104回定期の曲目からBWV4とBWV17を取り上げる。前半は各曲に登場するコラールを聴衆とともに合唱体験、後半で演奏。入場整理券 500円。詳しくはチラシをご参照ください。

「バッハ・カンタータ 50 曲選」

楽譜とCD、特価販売のご案内

先月号の「月報」(2月号)で、全点オンデマンド発行方式への切り替えのため、在庫の一掃を進めるので、「月報」読者の皆様にかぎり、以下のとおりの大サービスをいたします、というお知らせをいたしましたところ、多くの皆様から反響をいただきました。

キャンペーンを続行しておりますので、ひきつづきご注文をお寄せください。

- ・『50 曲選』[楽譜]、すべて本体価格の半額!! に。
- ・全曲セット(全 50 冊): 66,000 円 33,000 円

- ・『50 曲選』[CD]、全て 2,300 円を 500 円!! に。
- ・全曲セット(全 20 巻): 40,000 円 10,000 円
ただし、残部 3 セットのみ

第 104 回定期演奏会の曲目

「50 曲選」楽譜

- ・カンタータ第 124 番(1400 円 700 円)
- ・カンタータ第 4 番(1900 円 950 円)
- 以下 2 曲は、新規発行のため対象外です。
- ・カンタータ第 52 番(1200 円)
- ・カンタータ第 17 番(1400 円)

「50 曲選」CD

- ・[第 15 巻] (カンタータ第 124 番収録。他に 129 番、131 番カップリング)(2300 円 500 円)

ただし[第 1 巻] (カンタータ第 4 番収録) は品切れ。カンタータ第 52 番、カンタータ第 17 番は未収録です。

「連載：全部おすすめ 50 曲選!! <その 24>」の曲目

- ・カンタータ第 93 番 楽譜(1500 円 750 円)
- ・同曲収録 [第 12 巻] CD (2300 円 500 円)

新規シリーズ楽譜 既刊(「50 曲選」以降, 2007 年 ~)

- カンタータ第 17 番(感謝ささげ ほめ歌う者に)(1400 円)
- カンタータ第 52 番(悪しきこの世よ なれを頼まじ)(1200 円)
- カンタータ第 65 番(もろびと シバより来たり)(1500 円)
- カンタータ第 67 番(留めよ心に 主イエスを)(1400 円)
- カンタータ第 75 番(貧しきものは 食し)(1800 円)
- カンタータ第 102 番(主の目は 信仰を見たもう)(1500 円)
- カンタータ第 122 番(新たな嬰兒 小さきわがイエスは)(1300 円)
- カンタータ第 169 番(神にのみ わが心 献げん)(1300 円)
- カンタータ第 182 番(あまつ君を 喜び迎えん)(1600 円)
- カンタータ第 191 番(グロリア 高き天なる神に)(1800 円)
- カンタータ第 214 番(太鼓よ鳴れ ラッパよ響け)(2000 円)
- (括弧内は団内価格, 送料込みでお送りします)

次回刊行(2010 年 5 月予定、現在制作中)

- カンタータ第 111 番(み心は つねに成し遂げらる)(価格未定)

柳元 宏史

連載：全部おすすめ 50 曲選!! <その 24>

カンタータ第 93 番《ただ 主により頼み》

3 月は別れの季節である。わたしも昨年岡山の教会に赴任することが決り、合唱団とも、また数々の貴重な出会いとも別れなければならなかった。しかし一方で、心晴れやかでもあった。鹿児島出身の私は、13 年の東京暮らしにはちょっと疲れを感じていた。地方に行きたい、という想いが私をここに運んだ。地方といっても、岡山市は昨年 4 月に人口 70 万の政令指定都市になり、赴任した教会も市内の中心部にあって、毎週の礼拝に 100 名前後が出席する大教会であった。そこでまる 1 年がたつ。

そんなことを考えながら、この曲を聴いた。やはりバッハの旋律は魂を慰めてくれる。第 2 曲のレチタティーヴォには、溜息もて起きいで 涙とともに床に という歌詞がある。誰も一度ならずそのような経験をするのではないか。この不安定な心情をバスが見事に表現している。しかし最後には、不安げではあるが みな主にゆだね 進みゆくこそは まことの道 と、この曲を結んでいる。神は必ずふさわしい道を示してくださるといふ、信仰の告白ともとれる。つづくテノールのアリア(第 3 曲)では、十字架の時いたらば しずまり迎えよ 主の恵み なが救い と歌う。キリストの十字架は人間の抜き難い罪からの解放を、そしてキリストの復活は死では終わらない希望を示している。4 曲目のソプラノ/アルト二重唱は、テンポよく 主は 賜物 豊かに与えたまわん と歌い、背後で弦楽器が、このカンタータの柱であるコーラル旋律 ただ主により頼み を奏でる。一転希望に満たされている。明るい。

5 曲目(テノール・レチタティーヴォ)での聞き所は、稲妻といかずちを低音楽器が写実的に表現しているところだろう。面白い。また歌詞の内容も深い。... 稲妻ひかり いかずち鳴るときも / 主 なれを見棄てまさず / いたき悩みと死 襲うときも / かたえにましませば ... どんなことがあると、主なる神を信頼していいんだ。

その主に向かって 歌い祈り 誠つくすべし、そうすれば 豊かなる祝福 いやよ優りゆかん、依りたのむ者を 主は忘れまさず (第 7 曲、コーラル)。

カンタータ全体に見え隠れしていたコーラルが、ここでくっきりと全貌を現わした。日本の讃美歌にも収録されているもので(304 番、「21」454 番)なじみの旋律にはっとさせられる。深い神への信頼を歌う、落ち着いたコーラル・カンタータである。

(やなぎもと・ひろし、団友・蕃山町教会伝道師)

CD バッハ・カンタータ 50 曲選 [第 12 巻] に収録。S 光野孝子、A 佐々木まり子、T 佐々木正利、B 宇佐美桂一。橋本眞行指揮・東京バッハ合唱団/東京カンタータ室内管弦楽団。2004 年録音(第 98 回定期演奏会、石橋メモリアルホール) 楽譜:「50 曲選」No. 29